



私が息を吸える場所はどこ？

ドキュメンタリー



助成 文化芸術振興費補助金

★このチラシは植物インクで印刷してあります

いのちの林檎

www.inochinoringo.com

また、ここにも住めなくなった
絶え間ない放浪の日々
環境難民 化学物質過敏症

ありがとう
私を助けてくれた林檎

いのちの林檎 (2011/2h/DVCAM)
製作/いのちの林檎製作委員会 監督/藤澤勇夫 プロデューサー/馬場民子
撮影/植田和彦・青木淳二 編集/熱海鋼一 テーマ曲/嶋津健一 題字/エムナマエ 監修/柳沢幸雄





17年の苦闘の末、
無肥料・無農薬の林檎を
つくれた木村秋則

これはSFではない。現実なのだ！

世界で初めて化学物質過敏症を描いたドキュメンタリー

いのちの林檎

作品あらすじ：

化学物質過敏症の早苗さんは、近所のゴルフ場の農薬散布で息ができなくなり、母と二人で呼吸できる場所を探して車で旅にでる。しかし農薬や排気ガスで発作を起こし、旅は困難を極める。二人が辿りついたのは標高千m地点でのテント生活。しかしそのテント生活も安全ではなかった。また大阪の入江さん一家の長男絃司さんと次男茂弘さんは、学校の無理解から重症の道のりを辿ることになる。

化学物質過敏症とは……地球環境が危ないと叫ばれている。ホッキョク熊が絶滅の危機にあると報道されている。しかし危ないのは、地球や野生動物だけだろうか。実は私たちの身体も、環境に汚染され悲鳴をあげている。それが化学物質過敏症だ。国内で重症患者70万人とも90万人ともいわれている化学物質過敏症。早苗さんは、その中で最も重症と思われる苛酷な状態にある。100メートル先の煙草にも呼吸困難を起こし、白で小麦をひいてうどんやパンを作る生活をしている。呼吸困難、昏睡、転倒、電磁波過敏、早苗さんの苛酷な症状をカメラは追った。

かつて早苗さんが水が飲めなくなり生命の危機に瀕した時、いのちを救ったのは現代医学ではなく、17年の苦闘の末に木村秋則さんが実らせた林檎だった。このお話は化学物質に侵された女性が林檎で命を繋ぐことができたという現代のメルヘンともいえる。

感動を呼んで反響続々。

……*現在の食の問題、環境の問題の深刻さをこれほど鮮明に見せてくれた映画はありません。……*この事実を初めて知った。多くの人にこの事実を知ってほしい。……*ドキュメンタリーのすごい力、早苗さんの美しさに感動。……*見てよかった。もし我が子がと思うと胸が締め付けられた。母娘の明るい前向きな姿に感動した。……*木村さんのように全ての命ある物を大切に、感謝する事を忘れずにいたいと思いました。……*涙がでました。～学校に行きたくても行けないということが、とても悲しいことだと感じました。～未来が閉ざされるなんて……*「無知は罪だ」と声を大きくして言いたくなりました。それぐらい衝撃がありました。……*すさまじく、ショックでした。私達は当たり前前の生活を見直さなければいけない。……*早苗さん親子のたくましさ、「生きていこうという意志」に感動しました。～日本中、ひいては世界中の人々に見て欲しいと思いました。……*私の娘も同じ病気で今あちこち転々としています。～よくぞ、映画にして下さったと感謝の気持ちでいっぱいです。



監督*藤澤勇夫 岩手県釜石市生まれ、劇映画「パイパイラブ」製作・脚本・監督 2009年自主製作ドキュメンタリー「からっ風は知っている こころみ学園物語」 2010年自主製作ドキュメンタリー「いのちの林檎」

製作*馬場民子 広島県呉市生まれ、ラジオドラマ、アニメのシナリオを経て、記録映画「からっ風は知っている こころみ学園物語」企画・構成・プロデューサー 「いのちの林檎」製作・構成

5月28日(土) 広島東区民文化センター(小ホール)

第1回目 開場 9:10 上映 9:30~11:30

第2回目 開場 13:10 上映 13:30~15:30 [化学物質過敏症・ご家族の為の上映終了後トーク(会場第2スタジオ)]

第3回目 開場 17:10 上映 17:30~19:30 [終了後 藤澤勇夫監督・馬場民子プロデューサーによるトーク]

入場料：前売り1,000円／当日1,500円／学生500円

主催者：特定非営利活動法人 住環境測定協会

問合せ：TEL082-890-1023 / FAX082-890-1033 メール info@homenw.net <mailto:info@homenw.net>